

令和3年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 京都市 】

学校名【 京都市立向島秀蓮小中学校 】

1 実践テーマ	I ・ II ・ III ・ IV ・ V（複数選択可）
2 実施対象者 (学 年 ・ 人 数)	9年生 (117人) 5年生 (88人) 8年生 (94人)
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 (総合的な学習の時間) ② 行事名 () ③ その他 (特別活動) (2) 地域における活動 ① イベント名 () ② その他 ()
4 目 標 (ねらい)	コロナ禍で、生活やスポーツに制限がある中で生徒たちは、やりたいこと、頑張りたいことができずに夢や希望を持つことも難しい状況にある。キャリア教育の一助として、厳しい状況下でも夢を諦めずに夢を実現させたオリパラ選手を通して、強い気持ちや心情、考え方、できない事より出来る事を見つける生き方に触れ、諦めずに自分の未来を拓く力を育成を目指す。
5 取組内容	道徳、総合的な学習の時間、進路、人権、部活動、行事等を通して、横断的にキャリア教育を進めていく。 道徳「スポーツの力」「東京オリンピック」「その思いを受け継いで」「のぼさんの夢～正岡子規～」など 総合的な学習時間 キャリア教育(進路:高等学校の先生の講演) 部活動 夏季大会、新人戦 進路懇談(自己実現のため、進路選択) 秀蓮フェスティバル(体育の部、音楽の部) 人権教育、人権標語作成 キャリアノート(振り返り、今後の展望) 講演「未来を拓く力」 9年生 大村加奈子選手(アテネ、北京オリ出場)



5, 8年 北田千尋選手, 柳本あまね選手(東京パラ出場)



6 主な成果

9年生(オリンピック) 事後アンケート(感想) より

- ・すぐできないと決めつけるのではなく1%でも可能性があるのなら挑戦していくべきだと感じた。
- ・自分で諦めて、自分の可能性を捨てるのはもったいないと思った。
- ・勉強の質を上げようと考えようになった。
- ・時間がないという言い訳をなくし、自分で計画を立てて取り組むようになったこと。
- ・「時間がない」のではなく、時間をつくるものだということ。
- ・何か他の人に求めるときは、まず自分が相手に対して行動をしたり想いを伝えたりするようにしている。考え方だけでなく、物理的にも広い視野をもつようにしている。
- ・人に変わることを求めるより、自分が変わったほうが早いを意識している。

	5, 8年生（パラリンピアン）事後アンケートより ・今回の公演はとても貴重な体験になった ・障害について理解が深まった ・車イスバスケットを経験したい という項目が高かった。 講演内容では、 ・諦めずに努力すれば夢は叶う。 ・車いすバスケットの実演 ・車いすバスケットのルール（障害の重さの違いがあっても楽しめるように工夫されている） の順に印象に残っていると答えている 講演後の自分の変化については ・夢や目標を持つと思った。又は持った ・すぐに無理と言わないように心がけている ・夢や目標に向かって具体的に努力を始めた の順の結果であった。
7 実践において工夫した点（事業の特色）	キャリア教育の一助として「未来を拓く力」をテーマにし、チェレンジする前に諦めてしまう生徒の現状を事前に伝え、打ち合わせを行い、講演内容を華々しい大会出場の裏にある苦難に立ち向かう強い気持ちや経験を中心に生徒に伝えて頂けた。
8 主な課題等	・講師を探す…オリンピック、パラリンピアンの方をどのように探して良いのか難しかった。 ・講師謝礼…謝礼の相場もわからず、直接交渉する前での予算要求が難しかった。
9 来年度以降の実施予定	講師謝礼が確保できるなら講演を継続していきたい。 部活動での指導も検討していきたい。